

「神がして下さったみわざ」

ローマ8：3

堀田修一 23・6・4

これまでのみことばの到達点にこのみことばがある。これまでの総まとめ、次のテーマへの連結としての役割を果たしている。このみことばは、実は聖書全体の救いのメッセージを要約しているとも言える重要なみことばです。8：2に「いのちの御霊の原理が、罪と死の原理からあなたを解放した」（新解訳第三版）という素晴らしいメッセージを味わった。聖霊の働きにより、私たちは罪と死の力から解放されています。聖霊の働きを求めるなら、その時に、私たちは罪に支配されて生きることはない。なぜかを、パウロは3節で語ります。「肉によって弱くなったため、律法にできなくなったことを、神はしてくださいました。神はご自分の御子を、罪深い肉と同じような形で、罪のきよめのために遣わし、肉において罪を処罰されたのです」：3。

- I 「肉によって弱くなったため」＝人間の生まれながらの罪の性質という肉によって
「弱くなったため」＝人間は神に罪を犯し、自分の力では神の律法（神の正しい戒め、みこころ）を完全に守ることはできなくなった＝弱くなった。
「律法にできなくなった」＝律法は、私たち人間を罪のからだ、死のからだから救い出すことができない。それは、律法が悪いのではなく、人間が罪人で、律法を完全に守ることは不可能で、律法の行いによって救われることはできないという意味。ここに、律法による救いの望みへの絶望がある！人の罪故に。
- II 唯一の全能者である神の出番が来ました。人間は、心のうちにある肉＝罪の性質の故に、律法を完全に守ることによる救いは不可能となった。人間は、弱く、救いに関して完全に無力です。そこで神は、ご自分のひとり子をこの世に送り、その御子によって私たちを罪から救う道を設けられたのです。神は、ご自身の大切な御子を、私たちと同じ肉体を持つ一人の人間として世に遣わし、十字架につけ、私たちが受けるべき罪の刑罰を身代わりに受けられた。神を心からほめたたえ、心から感謝したい！
信仰とは、自分が肉（自分の罪の性質）によっていかに無力になっているかを認めることから始まる。それは、自分に対する深い絶望。自分が罪の奴隷であることの告白。次に、救いのために律法の行いによる救いも不可能と認めさせられる。人間には、正しい律法が知らされても、それに従う力がないのです。少し良い事をしたぐらいで永遠の救いを得ることはできない。人間の努力、修行、訓練ではどうにもならない罪の力が現実に、すべての人の中にあるのです。しかし全能で愛の神は、そのような絶望しかない私たち人間の現実に介入された。神は、ご自分の御子を遣わし、御子を十字架に付け、私たちが受けるべき罪の刑罰を御子が完全に受けられたのです。その御子を信じ受け入れるときに、私たちに罪の赦しと罪の力に対する勝利が与えられます。

Ⅲ「神はご自分の御子を、罪深い肉と同じような形で、罪のきよめのために遣わし、肉において罪を処罰されたのです」：3。ここに贖罪の深い意味が語られています。神は、キリストの肉において罪を処罰された。これは聖書の中で最も重大なこと。罪が処罰されたとは、肉における罪の支配が終わったという意味。それまで、私たちは肉（心の罪の性質）の支配下にあった。アダムが罪を犯して以来、私たちの肉において罪を犯すことが当たり前になってしまった。私たちはアダム以来の原罪を負っている罪人。罪の当然の刑罰を受けて永遠の滅びを受けて当然の者でした。

しかし神は、御子を私たちと同じ肉体を持つ者（罪を犯す前のアダムと同じように罪の性質を持たない人間）として世に遣わされた。その御子において、歴史上、ただ一度、奇跡が起きたのです。御子は偉大な神でありながら、完全に人間となられ33年間、地上で生活されましたが一度も罪（行いも完全に神の律法、神の御心に従われ、心の中でも憎しみ、恨み、汚れの思い、ねたみの罪を犯されず、口でも嘘、偽り、悪口がなく、御父と隣人を完全な愛で愛された）を犯されなかったのです。主イエスは、罪が全くないお方なので、私たち人間の罪を負い、身代わりに私たちの罪の処罰を受けて下さったのです。私たちの主イエスが十字架で死なれたとき、私たちの罪は完全に処罰されたのです。この時、罪の力、罪の支配は終わったのです。それは、主イエスの肉、御からだにおいて内的に起きた事実です。この主の十字架により、罪と悪魔は決定的な打撃を受けました→「今、この世（罪）に対するさばきが行われ、今、この世を支配する者（悪魔）が追い出されます（この世を支配する座から）」ヨハネ12：31。聖書全体から分かることは、主の十字架の後も罪は、消滅はしていません。しかし、主の十字架と復活により、主を信じ主と一体となったキリスト者への罪の支配は終わり、いのちの御霊の支配が始まりました。主の再臨まで、罪と悪魔との霊的な戦いは続きますが、主を信じる私たちの心には、罪と死に勝利された主イエスといのちの御霊が内住されており、三位一体の神に一步一步、より頼むなら罪と悪魔への勝利を与えてくださいます。

励ましのみことば。

「御霊によって（御霊に頼って、御霊の力と愛と聖さを祈り求めて）歩みなさい。そうすれば、肉（罪の性質）の欲望を満たすことは決してありません」ガラテヤ5：16。

「悪魔の策略に対して堅く立つことができるように、神のすべての武具（みことば・信仰の盾・祈り・祈り合い）を身につけなさい」エペソ6：11

「信仰の盾を取りなさい。それによって、悪い者が放つ火矢をすべて消すことができます。救いのかぶとをかぶり、御霊の剣、すなわち神のことばを取りなさい」：17

「あらゆる祈りと願いによって、どんなときにも御霊によって祈りなさい。そのために、目を覚ましていて、すべての聖徒のために、忍耐の限りを尽くして祈りなさい」：18

「また、私のためにも、私が口を開くときに語るべきことばが与えられて、福音の奥義を大胆に知らせることができるように、祈ってください」：19

「世にあっては苦難（悪魔、罪との霊的な戦い、試練、苦しみ、困難）があります。しかし、勇気を出しなさい。わたしはすでに世に勝ちました」ヨハネ16：33

「今持っているもので満足しなさい。主御自身が『わたしは決してあなたを見放さず、あなたを見捨てない』と言われたからです。ですから、私たちは確信をもって言います。『主は私の

助け手。私は恐れない。人が私に何ができるだろうか』ヘブル13：5，6。

「キリストは、神の御姿であられるのに、神としてのあり方を捨てられないとは考えず、ご自分を空しくして、しもべの姿をとり、…自らを低くして、死にまで、それも十字架の死にまでも従われました」ピリピ2：6-8

「イエスは、自ら試みを受けて苦しまれたからこそ、試みられている者たち（私たち）を助けることができるのです」ヘブル2：18。今、あなたは、苦しみ、試みを受けておられますか。あなたはひとりぼっちではありません。世界の誰よりも不当な不条理な苦しみを受けられた主イエスが、あなたのそばにおられ、あなたの辛さを理解し、寄り添い、支えて下さいます。